

ジョリパットマテリアルシリーズ
水墨(濃色)仕上げ
施工の手引き

適用品番

ジョリパットアルファ JP-100シリーズ

ジョリパットノンフリーズ JPW-100シリーズ

【初版】平成22年 4月

【改訂】平成23年11月

アイカ工業株式会社
化成品カンパニー

< 使用材料 >

材料	商品名	概要	荷姿	標準施工面積
シーラー	ジョリパットシーラー JS-500	1液水系アクリルシーラー (水で50~100% 希釈して使用)	18kg/缶	約135~240 m ² (水希釈量で 変動)
	<u>ジョリパットシーラー JS-410</u>	<u>1液溶剤系 アクリルゴム系シーラー</u>	<u>15kg/缶</u>	<u>約75~100 m²</u>
	<u>セーフシーラー JS-800</u>	<u>1液水系珪砂シーラー</u>	<u>16kg/缶</u>	<u>約80~106 m²</u>
主材	<u>ジョリパットアルファ JP-100 シリーズ</u> (<u>ジョリパットノブリーズ JPW-100 シリーズ</u>) 標準色 <u>JP(W)-100T</u> (<u>...数字</u>) 特注色 <u>JP(W)-100</u> (<u>...英字、...数字</u>)	アクリル共重合樹脂 水性仕上げ塗材	20kg/ 缶	約13 m ²
骨材	JF-1	寒水石(白竜) 1 厘	20kg/袋入り	約208 m ²
	JF-3	寒水石(白竜) 3 厘	20kg/袋入り	約40 m ²
	JF-7 6	太閤活性炭	10kg/袋入り	約216 m ²

セーフシーラー JS-800 は2kg×2個セットもございます。使用する面積によってはこちらをご使用いただくことを推奨致します。(施工面積目安：約20~25 m²/セット)

使用する下地に適合したシーラーをご使用下さい。詳しくは各シーラーの説明書または最寄のアイカ工業(株)各支店にお問い合わせ下さい。

ジョリパットノブリーズの使用目安温度は-6 ~ 10 度です。水系のシーラーを使用すると凍結の恐れがありますので、ジョリパットシーラー JS-410 をご使用下さい。

< 主な施工道具 >

- ・金ゴテ
- ・仕上げコテ (ステンレス製の腰が柔らかいコテ)

< 下地調整 >

モルタル金ゴテ押さえ (平滑) など

<水墨(濃色)仕上げ施工方法>

1. シーラー塗布

配 合	JS-500	18kg
	清 水	9~18ℓ
塗 布 量	0.15~0.2kg/m ²	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

1 JS-410の場合

配 合	JS-410	15kg
塗 布 量	0.15~0.2kg/m ²	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

1 JS-800の場合

配 合	JS-800	16kg
塗 布 量	0.15~0.2kg/m ²	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

下地、主材に応じた最適なシーラーを選定して下さい。

3時間以上48時間以内

2. 主材 下塗り

配 合	JP(W)-100シリーズ*	20kg
	JF-3	10kg
	清 水	1.5~2ℓ
塗 布 量	約1.5kg/m ²	
施工道具	金ゴテ	
	金ゴテにて薄く塗り、ランダムに荒した後 出た鏝波を消すように平滑に押さえてくだ さい。(図-1)	

夏期 8時間以上

冬期 12時間以上

乾燥を確認後、次工程に移って下さい。

3. 主材 混合

配 合	JF-76	2kg
	清 水	5ℓ
	・JF-76に水をよく染み込ませてから使用して下さい。	

30分程度

4 . 主材 上塗り

配 合 J P(W) - 1 0 0 シリーズ 2 0 k g
J F - 1 4 k g

3 . 主材 混合で作製した材料

塗 布 量 約 0 . 6 k g / m²

施工道具 金ゴテ

金ゴテにて均一に塗布してください。

- ・ 3 . 主材 混合で水を十分染み込ませた J F - 7 6 を J P - 1 0 0 及び J F - 1 と混ぜてください。
- ・ 粘度が高い場合は清水を + 1 割程度混ぜ、粘度調整してください。
- ・ 調合した材料を配る時、コテのエッジをたて、J F - 7 6 すり潰しながら薄く配って、扇状に塗りパターン付けをしてください。(図 - 2)

2 0 ~ 3 0 分程度後

5 . 仕上げ

- ・ J F - 7 6 が表面に出ないように、仕上ゴテで塗材表面を擦りながら平滑に仕上げる。

< 施工のポイント >

- ・ 下塗りは薄く塗布し、全体を骨材が転がるように荒していき、その後、平滑に押さえてください。

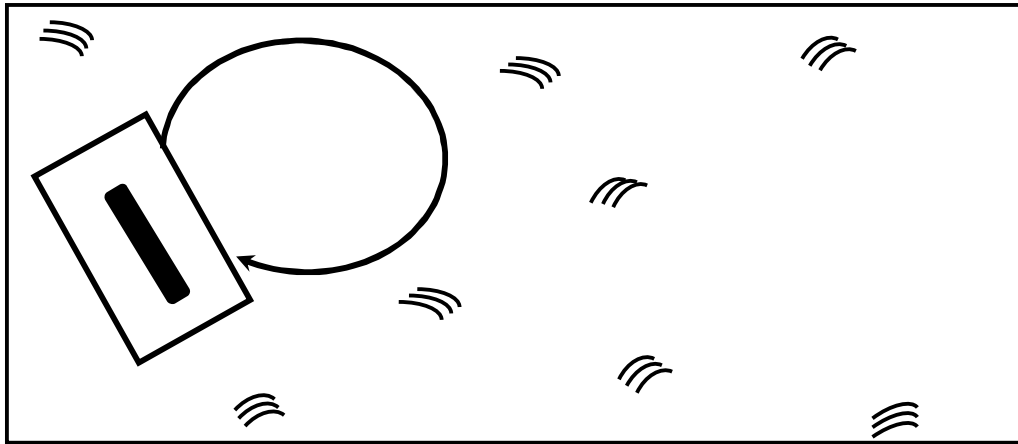
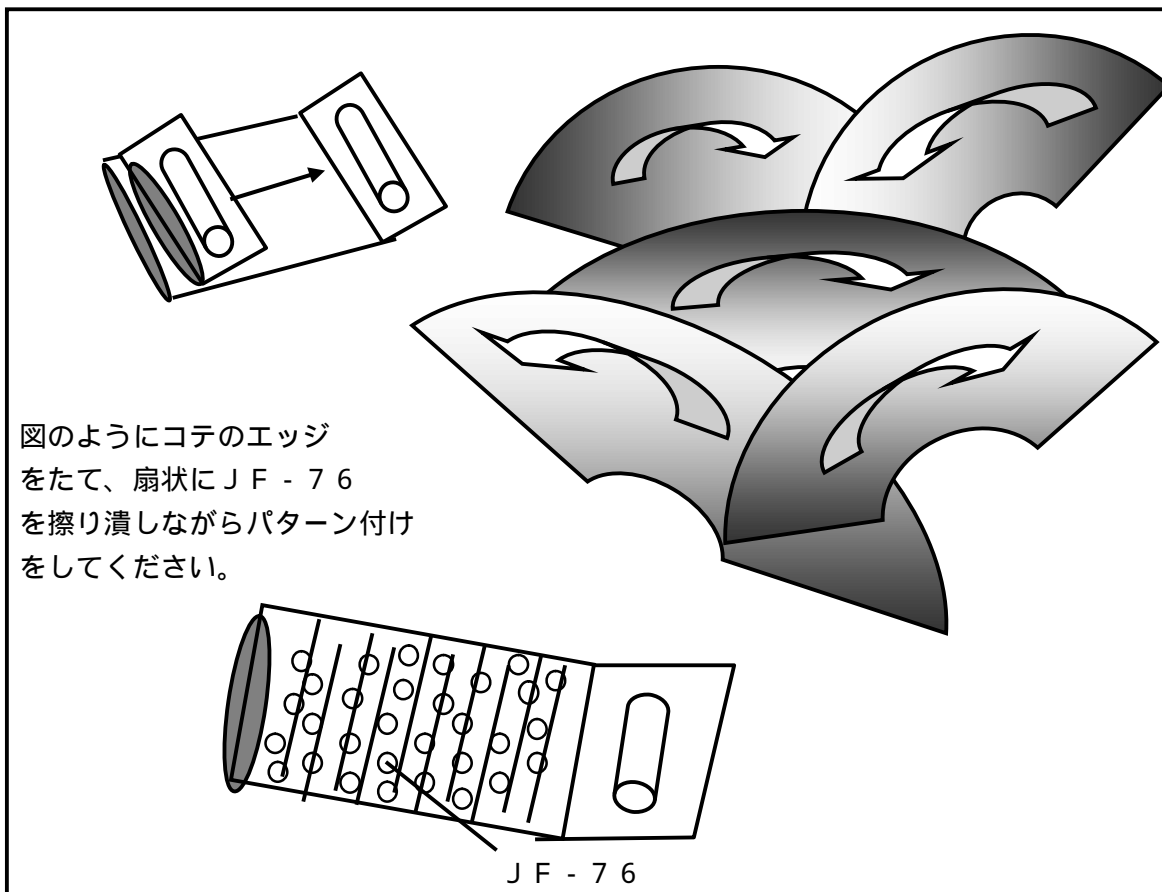


図 - 1



図のようにコテのエッジ
をたて、扇状に J F - 7 6
を擦り潰しながらパターン付け
をしてください。

J F - 7 6

図 - 2

< 施工の注意事項 >

- ・下塗りは厚付けにならないように薄く塗って下さい。
(厚いと仕上がりが悪くなります。)
- ・上塗り配合は必ず J F - 7 6 に水を染み渡らせてから攪拌を行う。水を染み渡らせないと攪拌が困難になるだけでなく、J F - 7 6 をすり潰すことが非常に困難になります。
- ・上塗り施工の際、低温時は特に厚い部分を作らないように施工してください。
(低温(5 以下)で塗布量が多いと、乾燥時に塗膜表面に亀甲状の割れが発生する場合があります。)
- ・コテを一定方向(縦又は横方向)に動かさず、ランダムに骨材を擦りつぶすようにしてください。
(一定方向にすりつぶすと模様がそのまま残り仕上がりが悪くなります。)
- ・仕上げは全体的にぼかした壁面となるよう、仕上げコテは何度も動かしてください。J F - 7 6 が表面に出ていると乾燥後、手や衣服に J F - 7 6 が付着する恐れがあります。
(骨材が潰れたすじが残らないよう注意。)
- ・この仕上げは天然物を使用している為、見本と色目が異なる事があります。
- ・施工前に必ずコンパネ等で試し吹きを行い、仕上がり、乾燥性を確認してください。
- ・塗板見本及び現場施工時のパターンの状態を、施主等の責任者の承認をいただいた上で施工を進めてください。
- ・乾燥が比較的速いため、塗り継ぎ時間に注意して下さい。
(特に外装の大面积を施工する場合は、作業人工や化粧目地による分割を検討して下さい。)
- ・気温 5 以下、湿度 80%以上、降雨、結露、強風などの条件下での施工は、硬化不良、ひび割れ、ふくれなどの不具合が発生する可能性があります。
- ・冬季の 5 以下での施工の際は、ジョリパットノフリーズ JPW-100 を推奨します。その際シーラーは凍結防止のため JS - 4 1 0 をご使用下さい。
しかしながら、-6 以下、降雨、降雪などの条件下では JPW-100 使用時でも硬化不良などの不具合が発生する可能性があります。
- ・シーラー、ジョリパット施工の際は臭気トラブルを防ぐ為、事前に近隣への案内等にご配慮下さい。
- ・シーラー、溶剤、洗浄剤(灯油など)で有機溶剤が含まれる場合は特に、防毒マスクを着用してください。また、必要に応じて保護眼鏡や保護手袋を着用してください。

J P(W) 1 0 0 - 5 5 - 0 1
(J P(W) - 1 0 0 水墨(濃色))

- ・ 施工器具(コテ、ローラー、吹き付けガン)などの洗浄水の、河川や側溝への廃棄は避けてください。
- ・ 商品ならびに施工に関するお問い合わせは最寄の当社支店までお願い致します。

以 上